

27Q-am01

フェイジョア *Feijoa sellowiana* Berg の成分研究 第4報 フェイジョアの C-配糖体型タンニン

○青山 弘枝¹, 波多野 力¹ (¹岡山大院医歯薬・天然医薬品開発学)

【目的】フトモモ科植物には C-配糖体型加水分解性タンニンが広く分布している。フェイジョア (*Feijoa sellowiana* Berg) はフトモモ科の常緑小低木であり、海外で広く栽培が行われているが、その成分についての研究はわずかである。これまでフラボノイドを中心とした成分探索を行ってきたが、今回はタンニンを中心としたさらなるフェイジョアの成分を精査する目的で実験を行った。【方法】本学薬用植物園にて採取したフェイジョア乾燥葉から抽出したエキスを溶媒分画およびカラムクロマトグラフィーにより各成分を分画・精製した。これらについて NMR 及び MS 等を測定し同定および構造決定を行った。【結果と考察】9種類の既知 C-配糖体型タンニンおよび1種の新規 C-配糖体型タンニンを単離した。既知化合物はそれぞれ、castalagin, vescalagin, degalloylstachyurin, grandinin, roburin E, 1-O-galloylcastalagin, actissimin A, actissimin B, epiactissimin A と同定した。新規化合物については、¹H, ¹³C, HSQC, HMBC および MS スペクトルより、vescalagin に五炭糖が結合した C-配糖体型タンニンであることが明らかになった。

